

函館中央病院内科・総合診療科医長に就任 重症患者には救急医療の経験を活かした処置を



函館中央病院内科・総合診療科医長

生方 晋史

今年4月、函館中央病院（本橋雅壽病院長）の内科・総合診療科医長として就任したのが生方晋史医師だ。神戸市生まれの生方医師の父親は内科・消化器内科・小児科を標榜する開業医。「父の影響は受けましたが、それよりも高校卒業後にい

ろいろと考えることで、医療への興味を持つようになりました」。昭和大学医学部に進学。「医者としての将来像を考えた時に、徐々に名を馳せていた『総合内科・総合診療科』に興味を持つようになりまし

平成24年大学卒業後、初期研修の2年間は今村総合病院（鹿児島市）、26年には浦添総合病院（沖縄県浦添市）に勤務した。「今村総合病院の救急医療は内科が中心でしたが、浦添総合病院の救急医療（救命救急センター）は重篤な患者さんに対し高度な医療技術を提供する三次救急医療機関で、沖縄県ドクターヘリ・浦添総合病院ドクターカーによる病院前救急診療とER（救急室）、集中治療を

柱にしています」。同病院の救急集中治療部の年間救急受診患者数は2万人を超えている。「総合診療医を目指す一方、医者の根本は救急医療だという思いがありました。救急での初期対応次第で命はもろろの事後遺症の発症も左右されます。本格的な救急医療を経験するために2年間勤務しましたが、非常に苛酷な現場でした」。沖繩の次は市立奈良病院に3年間勤務。「本格的な救急の現場から離れ、元々の志望である総合診療を学びたいという気持ちが強くなりました。総合診療医として救急、外来、病棟業務等を担当し、沖繩での経験も生かしつつ新しい環境で様々な経験を得ることが出来ました。ただ3年目になると少し業務がパターン化してきているように感じていました」。そんな折に、函館中央病院の内科・総合診療科を見学し清水平科長・板谷利医長らと話をすることが同病院に勤務するきっかけとなった。「本格的な糖尿病診療を学べるというのは大きな魅力でした。当院の内科・総合診療科は

糖尿病診療を強みに持ちつつ、臓器別の振り分けが難しい症例に積極的に対応しています」。生方医師は研修医の教育にも携わっている。多くの問題を抱える患者さんを診れるのは総合診療科だけで、将来、専門医になっても対処できる力を身に付けてほしいと強調する。

「さまざまな知識や経験が必要なので、常にアップデートするようにしています。また、救急医療の経験を活かして、重症患者さんに対して適切な対応・処置を行うこと。そして患者さんには少しでも安心感を与えることを心がけています」。

うぶかた しんじ
平成24年昭和大学医学部卒業、同年今村総合病院（鹿児島市）平成26年浦添総合病院救急集中治療部（沖縄県浦添市）平成28年市立奈良病院総合診療科（奈良市）平成31年函館中央病院内科・総合診療科医長に就任、現在に至る。
日本内科学会、日本救急医学会。